

2018 キューバ友好フォーラム

9月22日(土)

13:30~16:30 開場 13:00

★事前申し込みは必要ありません

会場 日本記者クラブ大会議室

TEL 03-3503-2721 東京都千代田区内幸町2-2-1
日本プレスセンタービル9階

東京メトロ千代田線・日比谷線「霞ヶ関駅」C4出口、丸ノ内線
「霞ヶ関駅」B2出口、都営三田線「内幸町駅」A7出口
JR「新橋駅」日比谷口(SL広場側出口)

参加費 1000円(会員 500円)



2016年6月2日、
来日記念パーティー会場での
ディアスカネル氏(右)
左はマルコス・ロドリゲス駐
日キューバ大使

どうなるキューバの新時代

カストロからディアスカネルへ

キューバの人民権力全国会議(国会)は2018年4月19日、ミゲル・ディアスカネル氏を新しい国家評議会議長(元首)を選出しました。フィデル・カストロ氏、ラウール・カストロ氏に次ぐ3代目の国家評議会議長で、58歳。1959年のキューバ革命後に生まれた“革命を知らない世代”ですから、今回のトップの交代によりキューバは新しい時代に入ったと言ってよいでしょう。

新しい世代の登場により、キューバは変わるだろうか。国交を回復した米国との関係はどうなるのか。そして、ラテンアメリカ諸国や日本との関係は? 私たちの関心事は膨らむ一方です。そこで、キューバの新しい状況に詳しいお2人にキューバの現状とこれからの展望を語っていただきます。(2ページに関連記事)



講演1 若者に魅力ある社会に脱皮できるか

ジャーナリスト 伊高浩昭さん

いたか・ひろあき。1943年東京生まれ。立教大学ラテンアメリカ研究所学外所員、元共同通信記者。67年から半世紀余りラ米情勢を取材。キューバ関係の著書に『キューバ変貌』『ラ米取材帖』『チェ・ゲバラ 旅、キューバ革命、ボリビア』など、訳書に『フィデル・カストロ みずから語る革命家人生』『フィデル・カストロ後のキューバ』『カストロ家の真実』など。

【講演要旨】キューバ革命の最高指導者フィデル・カストロ革命軍最高司令官の死去から間もなく2年、ミゲル・ディアスカネル国家評議会議長の就任から小半年、革命政府はラウール・カストロ共産党第1書記(前議長)の指導下で、1976年社会主義憲法の大幅改定作業を進めている。その狙いは、制度疲労している行政機構を柔軟にして同機構、ひいては社会主義体制そのものを延命させ、併せて、若い世代に出国を思いとどまらせられるような「魅力」を醸し出すこと。改憲は年末以降に実施される国民投票で実現する見通し。だが改憲を含むあらゆる改革の歩みが余りにも遅く、慎重すぎるとの批判・不満が噴出している。



講演2 サルサとスペイン語を習いにハバナへ

会社員 山田砂波麗さん

やまだ・さはら。1986年生まれ。幼少時より、親の都合で、アジア、アフリカ、中東などリスキーなところへ引き回され、海外渡航歴多数。高校・大学でタイのチェンマイやアメリカのカンザスへ留学。卒業後は電気機械会社で営業・通訳に従事。昨年、ホーチミンに居住。